

目 次

1 提案趣旨	1
2 提案内容	1
(1) 年間計画に位置付けられた職員研修において	
ア 出張報告「道徳教育推進教師等研修会」(平成29年6月15日)の伝達	
イ 「板書の工夫」	
ウ 「評価の手引き」作成に向けて	
エ 「信頼ある評価」に向けて	
(2) 道徳教育推進教師を中心とした常時研修	
ア 職員資料「今月の美田中の道徳教育」の発行	
イ 職員資料「明日への扉～道徳教育推進教師だより～」の発行	
ウ 職員図書等の資料の充実	
(3) 教師個人や学年単位、学校全体での教材研究	
ア 研究授業	
イ 「教材研究ノート・評価補助簿」	
(4) 成 果	
3 今後の課題	12

「特別の教科 道徳」に向けての職員研修の実践

提案者 小山市立美田中学校教諭 蝙間 知子

1 提案趣旨

本年度は、中学校における「道徳科」元年である。移行期間においては、「議論する道徳」や「評価」に対する教員の不安感もあり、研修の必要性を強く感じていた。この期間を「やってもよい」ではなく「やらなくてはならない」と捉え、道徳教育推進教師として早め早めの準備をすることで不安感解消に努めようとした。ただし、昨今の教育事情をふまえると他にも研修すべき課題も多く、毎月の職員研修において「道徳教育」ばかりを扱うわけにもいかない。そこで、常時研修や個人での研修も加え、各教員の「教師力」の向上を図ろうと考えた。目に見える成果としては、教職員反省における道徳の項目の数値上昇が挙げられる。そのほか、職員間で道徳に関する会話が増えていることも挙げられる。放課後の職員室で授業研究会並みの議論が見られたときには、係として確かな手応えを感じた。今回は、昨年度から取り組んできた本校の職員研修の実践と成果を紹介する。

2 提案内容

(1) 年間計画に位置付けられた職員研修において

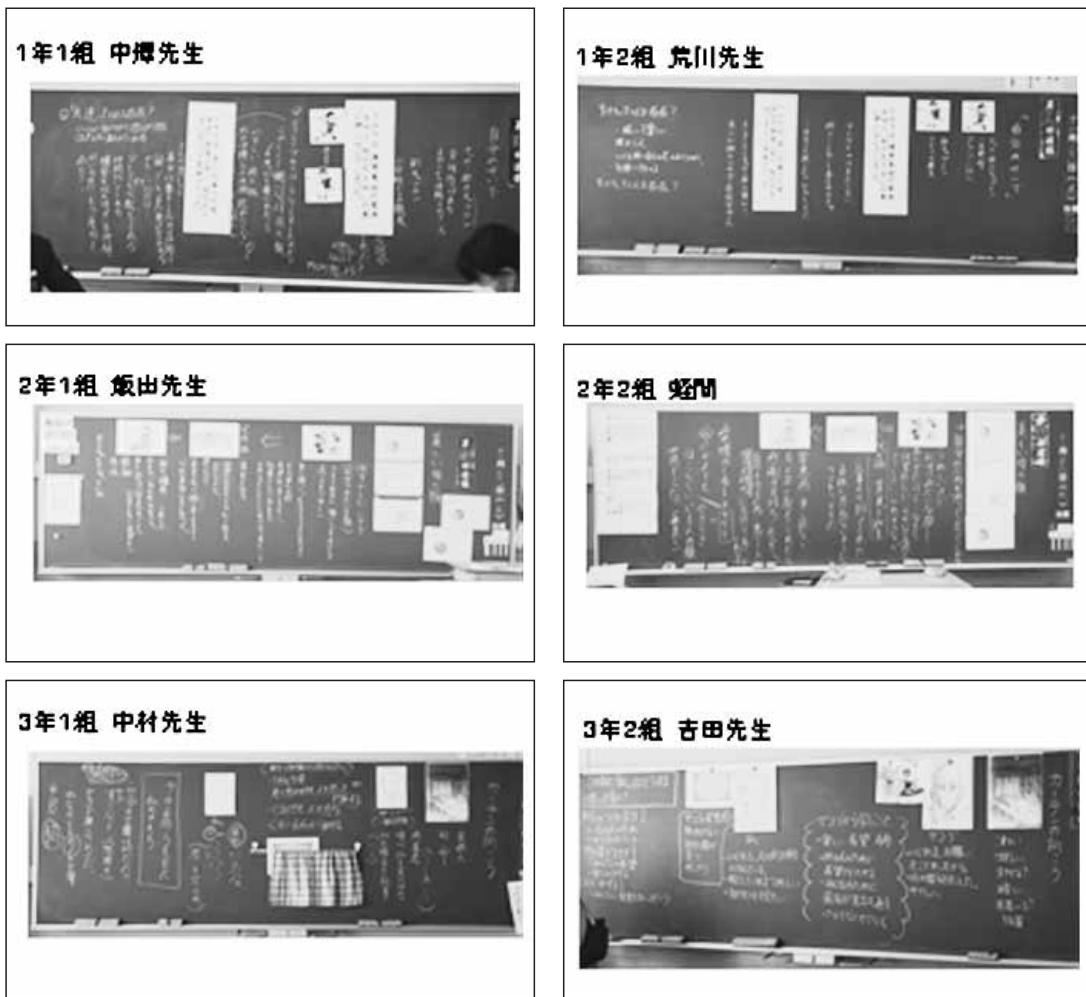
ア 出張報告「道徳教育推進教師等研修会」(平成29年6月15日)の伝達

- 実施日 平成29年9月27日
 - ねらい 新学習指導要領についての理解を深める。
 - 内 容 新学習指導要領、「考え方、議論する道徳」について
 - 方 法 研修会配付資料を用いての道徳教育推進教師による講義形式
 - 成 果
 - ・道徳の時間の大切さを再認識することができた。
 - ・新学習指導要領への理解が深まった。
 - 課 題
 - ・教員の新学習指導要領の認知度がそれほど高くない。
 - ・さらに研修を重ねる必要が大きいにある。
- ※道徳に関する職員研修を充実させる必要性を感じ、年間計画に位置付けられた研修以外にも研修の場を設定しようと考えるきっかけとなった。

イ 「板書の工夫」

- 実施日 平成30年12月10日
- ねらい 板書する上で工夫した点や反省点、疑問点を持ち寄って協議することを通して、今後の授業に役立てることができるようとする。
- 内 容
 - ・各担任が工夫した点や反省点、疑問点を発表
 - ・質疑応答
- 方 法
 - ・道徳の授業後の板書を各担任が撮影

- ・校務用パソコンの共有フォルダに保存
 - ・係がパワーポイントにコピー
 - ・職員室自席にて、各自がパソコン画面を見ながらの研修
- 成 果
- ・各担任が効果的な板書を意識して教材研究を進めることができた。
 - ・お互いの板書の仕方や工夫を知り、刺激を受けたことにより、板書計画も含めた教材研究に一層励もうという雰囲気を作ることができた。
- 課 題
- ・外部講師等の指導助言者がなく、職員間の情報交換・協議に終始した。指導助言をいただき、今後に役立てるための機会の設定が必要。
 - ・学年で指導案検討を重ねたため、板書も似通ったものとなり、様々なパターンの板書の研修には至らなかった。今回のような特別な研修を設けなくても、日頃から教材だけでなく、板書についても教師間で話題にしたり、個人で研修を重ねたりして、レベルアップを図ることが必要である。



配付した画像 各担任の工夫が見られる

ウ 「評価の手引き」作成に向けて

I 「道徳の評価」

○実施日 平成30年9月26日

○ねらい 次年度から始まる「道徳科」の評価に関する基本的な考え方や方法についての理解を深める。

○内 容 •『教育研修シリーズ』「特別の教科 道徳」(道徳科)～評価について～
(H30.5 小山市教育委員会 学校教育課 教育研究所)
•『道徳教育』(H30.7 明治図書)
通知表記入にかかわるQ & A

○方 法 道徳教育推進教師による講義形式

○成 果 •評価に関する概略を理解することができた。

•評価は、自分自身の授業の評価でもあるという意識をもって、日々の授業作りに取り組もうという意識を高めることができた。

○課 題 •どのような文章表現にしたら良いか、どのような手順で評価するか、
今年度のうちに本校の方針をまとめることが必要。
•一層の研修が必要。

II 「美田中学校 評価の手引き」趣旨説明

○実施日 平成30年12月10日

○内 容 •趣旨説明：評価の方法や所見の記入例をまとめた「美田中学校評価の手引き」を今年度中に作成し、次年度のスムーズなスタートに備える。
•教員の冬季休業中の「宿題」として、通信票所見の文例を2つ以上考える。
•小山市で採択された教科書を読み、題材や内容項目にあった所見文例を考える。

III 「特別の教科 道徳」の評価に向けて

○実施日 平成31年1月30日

○ねらい 妥当性・信頼性の高い道徳の評価をするための共通理解を図る。

○内 容 •「美田中学校 評価の手引き」の検討
•通信票所見文例の検討

○方 法 グループ協議

○成 果 •新年度にあわてることがないよう準備をすることができた。
•グループ協議の際に、評価のことだけではなく、道徳の時間そのものに関する話題にも発展し、ベテラン教員から若手への助言の機会にもなった。
•各自が書籍等で研修したり、他校や小学校の取組の情報収集をしたりするなど、協議に向けて準備することを通して、評価に関する理解が深まった。

○課題 • 題材や内容項目ごとの所見例は準備できたが、「大きくりなまとまりを踏まえた評価」についての理解を深めるための一層の研修が必要。

学年	2年教材名	3年教材名	評議大綱	生年数
	13 父との約束	9 思い出のオムライス	自分の行動に責任を持つことの大切さに気づき、結果に責任しようとする気持ちを持つことができました。	48
	23 風情地の元次	13 売場を楽しむとき 上杉由也	自分を振り返り、今後の生き方を考える姿勢が見られました。「ホリバ探偵」の授業では、真心をもって勉強を続けることが自分の行動に責任を持つものだったことを実感することができました。	95
			大人の生き方や名言に触れ、これからの生活に生かせることを考えることができました。遺物ノートの授業からは、今までの生活を反省し自らと向き合って生きようとする意識が感じられました。	87
	1 ものに想ひついで 石川千春	8 引きを挟む	「」の授業では、収監と脱獄、2つの心の財産を演じることで、心の弱さに負けないために必要なことを考えることができました。	60
	34 晴れあれば	28 電脳はスマート 美い方法算	スマートフォンを使いつぶやきのマナーについて、私たちと密接に密接に接続交換をすることができました。計算もある授業方法について自分の意見を述べて発表することができました。	78
			あいさつについて考えた授業では、その重要性だけでなく自分が普段何気なく行っているあいさつが周囲にどんな影響を与えていたかということまで、考え方を深めることができます。	84
	10 ジャッジとチャレンジ	1 三十歳の金ガタリ	登場人物を自分で選んで探して考える、想像で学んだことや考えたことをもとに理解とする自分の生き方を見出し、実現していくといふ姿勢が高まりました。	71
			スポーツ選手の努力を経てきた軌跡や決した名言に触れ、自分の個性をさらに伸ばしていくこうとする気持ちをもつことができました。	61
			夢を叶えるために、どのような気持ちをもち努力し続ければよいのかを真剣に考えることができます。遺物ノートには「あっ」という言葉がとても印象的です。	72
	15 花壇を引き取った喜園志奈	82 スポーツの力 社説真名	課題を自分自身のこととしてどうらん、真剣に考える様子が見られました。登場人物の生き方と自分の生き方とを比較し、筋肉に努力を重ねようという意欲が高まりました。	78
			「」の授業では、主人公の生き方に触れ、自分を高い目標を抱げがんぱりたいと胸高いました。その發言は、私にも勇氣を与えていました。	66
			話合ったことをもとに自分自身を見つめ直す、「ロロロロな自分になりたり」といふ悪い思いをもつことができました。	55
	19 ヒートに興奮を求めて 山中伸介	14 町工場から宇宙へ	登場人物に自分の夢を重ね合わせ、運営実験のために必要なことは何かを真剣に考えていきました。授業を通して自分の生き方を見つめ、よりよく生きたいといふ想いをもつことができました。	86
	25 ものづくり	28 山中伸介と山中泰英 伸びるね	山中伸介さんの研究に対する姿勢に感動を受け、自分のこれから的生活にどう生きがしたらよいかを考えました。「」といふ言葉がとても印象的です。	74
			進歩を成し遂げた人の個性の説得力に触れ、「」のようにして生きていきたい	66

完成した「美田中学校 評価の手引き」の一部

エ 「信頼ある評価」に向けて

○実施日 令和元年 6 月 12 日

○ねらい 初めての道徳の評価に向けて、共通理解を図り、準備を始めるにあたり疑問点を解決する。

○内 容

- ・実際に所見を書いてみよう。

- ・各担任が補助簿や生徒のノートを持参し、2人分の評価を考える。

- ・文章の検討

○方 法 グループ協議

○成 果

- ・評価に関する共通理解を図ることができた。

- ・評価に関して、年間の見通しが立ち、教師の不安解消につながった。

- ・実際に所見の文章を作ったことで自信につながった。

○課 題

- ・「大きくくりなまとまりを踏まえた評価」についての理解が深まっていない。

- ・限られた字数での適切な表現に関しては不安が残った。生徒の良さや成長の様子を伝えられるよう、一層の研修や授業研究が必要。



グループ協議の様子

(2) 道徳教育推進教師を中心とした常時研修

ア 職員資料「今月の美田中の道徳教育」の発行

職員に配付するだけでなく、職員室出入り口ドアに掲示して常に意識できるようにしている。



○発行（平成30年4月から）のきっかけ

- ・平成29年度学校評価のうち教職員の反省において「他領域との連携」の項目の評価が高くなかった。

○方 法

	A	B	C	D
1学期末	15.4%	84.6%	0.0%	0.0%
2学期末	53.3%	46.7%	0.0%	0.0%
学年末	54.5%	45.5%	0.0%	0.0%

- ・別葉を月別に分け、3学年分をまとめたものを職員に配付する。
 - ・職員室出入り口にも掲示し、常に全教育活動において道徳教育を意識できるようとする。
 - ・裏面には、研修資料を掲載する。
- 例：教材研究ノートの写し、『道徳教育』（明治図書）の記事、研究授業の資料など

○成 果

- ・平成30年度の教職員反省

「他領域との連携」に関する項目の数値が高くなった。

H29年度末 A評価 54.5% → H30年度末 A評価 86.7%

- ・裏面の研修資料を見て、職員間で意見交換が増えた。
- ・若手の教員が資料にあった手法を授業でチャレンジし、その成果や反省を職員間で話題にすることもあった。

○今後の構想

- ・教職員反省の結果にもあるように、全教育活動において道徳教育を意識できるようになってきている。関連のある授業の様子や学校行事の一場面を写真等で紹介し、さらに意識を高めたい。

イ 職員資料「明日への扉～道徳教育推進教師だより～」の発行

明日への扉

黒板中学校
進化教育創造実験校として
2012年4月25日 会員登録(先生も生徒も進度が変更しにくくなりますように)

2年1組 4/24(水) 第1回定期評定
「三十一年の全才づくり」 A君 意志心 勉強の持続
知らない自分をもとめ実現して進む姿勢に、前向きに努力する姿勢に進むことで、実現した生き方をし
ようとする意欲が見られました。

会員登録の時間は 「黒板中学校」 承認してください。
先生が...
黒板の中を活かしていくステー

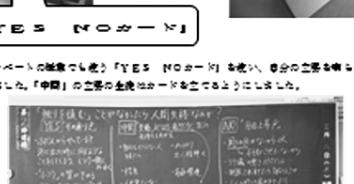


「リオ会議」を成し遂げています。
先生の机上には色々な色カードを置き、順番で取らします。 まだまだ大きいのが残るからこの
この日は、他の生徒が新しい色の時、
参考研究
ノート
の例

■本日の授業
同心を高めるには何が
生徒の机上には色々な色カードを置き、順番で取らします。 まだまだ大きいのが残るからこの
この日は、他の生徒が新しい色の時、

■本日の授業
同心を高めるには何が
生徒の机上には色々な色カードを置き、順番で取らします。 まだまだ大きいのが残るからこの
この日は、他の生徒が新しい色の時、

社会のディベートの練習でも使う「YES・NOカード」を使い、自分の立場を明らかにしてグループで討論しました。「中国」の立場の生徒はカードを立てるようになりました。

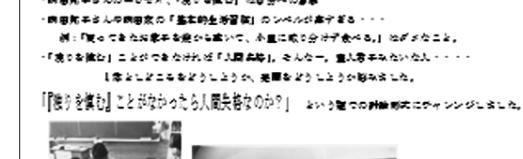


明日への扉

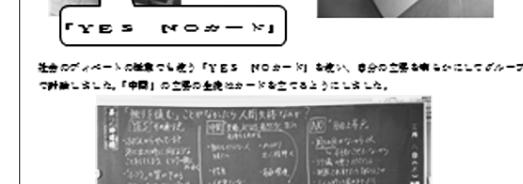
黒板中学校
進化教育創造実験校として
会員登録(2012年3月10日 会員登録(先生も生徒も進度が変更しにくくなりますように))

2年1組 4/24(水) 第1回定期評定
「三十一年の全才づくり」 A君 意志心 勉強
知らない自分をもとめ実現して進む姿勢に、前向きに努力する姿勢に進むことで、実現した生き方をし
ようとする意欲が見られました。

会員登録の時間は 「黒板中学校」 承認してください。
先生が...
黒板の中を活かしていくステー



「迷う気持ち」ことばをわざわざ先生に教わらせて貰いました。
「迷う気持ち」とは何か、何がどうなってしまうか、問題をどうしようか悩みました。



教材研究ノートの紹介や板書例

YES NO カードの紹介

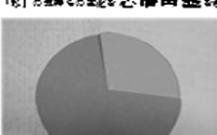
明日への扉

朝日中学校
有志部会等活動部など
令和元年(2019) 令和元年2月7日 横尾裕介(先生)と生徒の意見を重んじておこなうように)

2年1・2組 クノ / 2年3・4組 クノ / 3年3・4組 クノ

「**明日への扉**」のテーマは、生徒たちの心の声を聞き、意見を尊重しておこうとした。他の方面も細かいところではある。






上記 E-2会場 2-1会場で資料・書類ノートに貼らせておこう。

第1回連携 「三十点の金メダル」
2019.4.24開催

①「自分でやっているなら、楽しむ」とどれだけ楽しい試合をして自分が満足いともらはないんじゃない?」といふ。
含意で、伊藤選手がはつとしのばは、「亡く故に敗ましてもらえた気がした。
なぜでしょう。
・自分が好きだからレスリングを行け。
できたのに、いつの間にか自分のために、楽しむことを自分がよい試合。
めしゃなくて人の意見を尊重していったから。
・たれでもわかることを今になって人に言わねないと気づかなかったのか?
伊藤選手にとっての100点とは、どのようなものでしょう。
勝ち負けと金メダルとがより、もっとレスリングと向かい合って、技術面より心の面の努力の結果を出せたと、心から思ったと。
・いつの間にか勝ち負けだけを気にして、感られることをいやがっていた。
・楽ししさを忘れていた。
・レスリングに限らず、スポーツをする上で一番最初で大切なことを思い出していた。
・今まで何のためにやってきたのか。
勝ったため?自分のため?
・自分が成長するために技を磨いたり、楽しくレスリングができると、その試合楽しんだりすることが大切だと思った。
・勝ちは良い、負け=悪という思い込。
伊藤さんの中に100点はない。あっただとしても引退の時。
・成績記録がストップしたにもかかわらず、誰いふ持ちでオリンピックに臨めたのはなぜでしょう。
・新しい自分、少し成長した自分になった。
・悪い気分ち。

心情凹盤の紹介

たよりの裏面は生徒に配付している道徳通信

○発行（平成31年4月から）のきっかけ

- ・昨年度から使用し始めた「道徳ノート」の使用状況が担任間で差が大きく、様々な活用例を示そうと考えた。
- ・道徳の授業を教師が楽しみになるくらい教材研究を行うことにより、生徒も道徳の授業がさらに楽しみになり、道徳教育の一層の推進が図れると考えた。

○方 法

- ・道徳教育推進教師の授業の様子を紹介

例：教材研究ノート、板書例、トリオ学習、YES NO カード、心情円盤など

- ・裏面は、道徳教育推進教師の学級の生徒へ配付している「道徳通信」を掲載
- ・できるだけタイムリーに。翌日か翌々日には発行。

○成 果

- ・道徳の授業、年間35時間実施の意識を高められている。
- ・具体的な指導例を示しているので、授業の改善に役立っている。
- ・たよりを参考に若手教員が道徳通信を始めた。
- ・職員間で話題になり、放課後の職員室がミニ研修会になっている。

○今後の構想

- ・他の教員が行う研究授業や準備段階のプレ授業の紹介
- ・「ローテーション授業」の提案と実際の授業の紹介

ウ 職員図書等の資料の充実



教科書に掲載されている題材の部分に目印



評価関連書籍を各学年分準備

(3) 教師個人や学年単位、学校全体での教材研究

ア 研究授業

○平成30年9月5日

- ・共同訪問プレ授業
- ・全職員参観
- ・ビデオ撮影
- ・紙面での感想
- ・助言や授業者と参観者の個別の議論



○平成30年10月4日

- ・共同訪問研究授業
- ・授業研究会：分科会方式だったため全職員が参加することはできない。そこで、研究会の記録をまとめたものを各自での研修の参考になるよう配付した。

○平成30年11月28日

- ・美田中学校「心を育てる学校教育の日」全クラス道徳授業参観
- ・題材は学年で統一
- ・指導略案作成のための検討会を各学年で実施
- ・指導略案集を作成し、参観者に配付。
- ・学区内小学校の教員も参観し、感想を書いていただき、授業者にフィードバックする。

<p>平成30年度 美田中学校 心を育てる学校教育の日</p> <p>道徳 指導略案 資料</p>  <p>平成30年11月28日(水)5校時</p>	<p>第3学年道徳学習指導略案</p> <p>主題名：『取り人用意』 発表名：『カーテンの内ごう』（出席：中学生達）『心つなじセ』（教育部員） ねらい：ヤコブの仲良や『旅』の年齢等を考えることを通して、洋子の立場や気持ちを尊重しながら、人間虎の精神を味めようとする態度を育てる。</p> <p>発表及び考察</p> <table border="1"><tr><td>著人</td><td>教室の静を保て、状況を考える。「この静虚からはどうな感じがしますか？」</td></tr><tr><td>(1)</td><td>発表の静を保む。「発表を保んで。どんなことを考えましたか？」</td></tr><tr><td>(2)</td><td>発表の静を保む。「カーテンの内ごうを私たちは、何を考えたのですか？」 「この旅と旅はどうすると感じますか？」 「歩きのことをまう／ヤコブのように、墙をついて歩くをする」</td></tr><tr><td>(3)</td><td>「ヤコブの仲良の方へ、もし歩くことがあるとしたら、何でしょう？」</td></tr><tr><td>終本</td><td>教師の説明</td></tr></table> <p>中心発揮口</p>	著人	教室の静を保て、状況を考える。「この静虚からはどうな感じがしますか？」	(1)	発表の静を保む。「発表を保んで。どんなことを考えましたか？」	(2)	発表の静を保む。「カーテンの内ごうを私たちは、何を考えたのですか？」 「この旅と旅はどうすると感じますか？」 「歩きのことをまう／ヤコブのように、墙をついて歩くをする」	(3)	「ヤコブの仲良の方へ、もし歩くことがあるとしたら、何でしょう？」	終本	教師の説明
著人	教室の静を保て、状況を考える。「この静虚からはどうな感じがしますか？」										
(1)	発表の静を保む。「発表を保んで。どんなことを考えましたか？」										
(2)	発表の静を保む。「カーテンの内ごうを私たちは、何を考えたのですか？」 「この旅と旅はどうすると感じますか？」 「歩きのことをまう／ヤコブのように、墙をついて歩くをする」										
(3)	「ヤコブの仲良の方へ、もし歩くことがあるとしたら、何でしょう？」										
終本	教師の説明										

指導略案集の一部



授業の様子

イ 「教材研究ノート・評価補助簿」

○導入の目的

- ・教材研究に時間をかけられていない状況の改善のため。
- ・年間35時間実施の意識付けのため。
- ・発問の精選や発問の言葉の選び方に至るまで、授業を組み立てる過程を記録としての残し、授業改善に役立てる。
- ・「信頼ある評価」を行うことと説明責任を果たすため。

○成 果

- ・教材研究の記録を残すことにより、授業改善に役立っている。
- ・授業の記録を残すことにより、評価の際に生徒の成長を見取ることができる。
- ・評価に関する説明責任を果たすことができる。



○課 題

- ・活用方法を教員同士で意見交換したり、お互いのノートを見せ合ったりして授業改善に役立てる機会を設けたい。
- ・取組を継続することにより、「教師力」の向上につなげたい。

ウ 各種研修会への参加

○小山市道徳教育拠点校 授業研究会への参加

- ・事前に資料、指導案を読んで参加。
- ・研究会に参加しない教員とも議論してから実際の授業を参観するようにしている。
- ・帰校後、研究授業や研究会の内容を報告。参観者のメモがある指導案等資料の配付。

○ナイトカレッジ、ステップアップカレッジへの参加

- ・勤務時間外の自主研修。新しい実践例を学ぶ機会となった。

(4) 成 果

ア 「美田中学校 力点と具体策反省」(学期末に実施する教職員の反省) より

		評 価	H29年度 学 年 末	H30年度 1 学期末	H30年度 2 学期末	H30年度 学 年 末
(1)	年間指導計画に基づいて道徳の授業を実施する。	A	81.8%	60.0%	75.0%	86.7%
		B	18.2%	40.0%	25.0%	13.3%
		C	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		D	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
(2)	1時間1時間の道徳の授業を大切にする。	A	81.8%	73.3%	75.0%	93.3%
		B	18.2%	26.7%	25.0%	6.7%
		C	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		D	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
(3)	他領域との連携を図る。	A	54.5%	66.7%	75.0%	86.7%
		B	45.5%	33.3%	25.0%	13.3%
		C	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		D	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

教職員の反省の数値からは、学校全体で道徳を大切にする雰囲気が醸成されていることがわかる。(3)の他領域との連携では、大幅に数値が上昇しており、「今月の美田中の道徳教育」発行による効果と言える。

イ 職員アンケートより

- 特に「評価の手引き」の検討、所見の文例の研修が有効。
- 評価に関して不安があったが、研修を重ねるにつれ、具体像が見えてきた。
- 評価に関して、先を見通して研修を設けているので安心できる。
- 「今月の美田中の道徳教育」「道徳教育推進教師だより」については、具体的な事例を紹介していて、若手教員の研修に役立っている。自分もチャレンジしてみたいという意欲につながっている。

ウ 実践を振り返って

本校の教職員には業務多忙の中、次回の研修までの「宿題」を課すこともあり、大変だと感じたこともあっただろうと思う。道徳教育の重要性、新学習指導要領への理解、評価について研修を重ねるにつれ、職員室で道徳の話題が増えてきた。道徳の授業後に職員室に戻ってきて、教師同士が生徒の反応を嬉しそうに語っている姿を見ることができ、研修の手応えを感じた。

「道徳教育推進教師だより」を参考に、学級の道徳通信を始めた若手教員もいて、意識の高まりを感じる。

今年度から「道徳科」となったが、特に慌てることもなく授業を実施することができている。昨年度から計画的に研修を重ね、教職員の意識を高めてきた成果と言える。

3 今後の課題

(1) 継続的な研修

一定の成果をあげた一連の研修であるが、各個人の「教師力」を高めるために、方法に工夫を加え、さらに研修を重ねることが大切であると考える。

(2) 外部講師等による指導・助言の機会の設定

振り返ってみると、校内研修ということで校内で完結する研修に終始した。研究授業の際には、外部から指導助言者を招いたが、道徳教育推進教師が行うものが多い。評価に関しても授業改善に関しても、指導助言をいただき、視野を広げたり理解を深めたりすることが必要であると考えている。

(3) 効率的かつ有用な研修方法の工夫

「働き方改革」が叫ばれる中ではあるが、研修は教員の義務であり、「教師力」向上のためにも生徒のためにも時間をかけて行いたいものである。しかし、様々な課題があり、道徳教育を始め特定の課題にばかり時間をかける訳にはいかない。年間計画に位置付けられた自分の担当の数少ない研修の機会に、できるだけ多くのことを効率よく、わかりやすく、さらには「明日から実践してみよう」と教師自身が意欲を高められる研修が求められる。紙ベースの資料ではなく、しかも大がかりな準備もいらない、校務用パソコンの画面を見ての研修は大変有効であった。少ない準備で最大の効果をあげる一助としてＩＣＴ機器の活用を今後も実践していきたい。

また、研修の課題を係が一存で設定してきたが、疑問に思っていること、他の教員の意見を聞いてみたいことなどのアンケートを実施し、教員の実態に即した内容の研修を設定することも考えたい。